

『数学通信』26巻2号(8月20日発行予定), 編集後記

矢崎 成俊 (やざき しげとし)

====ここから====

ここ三ヶ月に縁のあった雑誌ちらほらと, 「おし」を三つ▶『数学通信』26巻1号. 坪井忠二「数理のめがね」を書評しました. 中谷宇吉郎に続いて「推し」が増えました▶『現代数学』7月号. 「輝数遇数」に掲載していただきました. 読んだら授業を受けたくなくなると言われました. 執筆・亀井哲治郎さん, 撮影・河野裕昭さんに感謝です▶応用数理学会の電子ジャーナル『JSIAM Letters』に掲載決定. 診療限度とワクチン接種限度のある感染症流行モデルを提案しました. 限度があるとたとえ基本再生産数が1より小さくても感染が蔓延してしまうことがあります. 別の話題でもう一つ. 新しい画像輪郭抽出法を提案しました. 方程式に「押し」の項があるとよいことを発見できました▶『数学セミナー』8月号. 高校生を念頭に, マクロな定理で見えないミクロに思いをはせました. ミクロからマクロをみちびく特集です▶『数学文化』8月号. 感染症流行のSIRモデルを漸化式で説明しました. 論理の果てに現象がある, という心が伝われば幸いです▶そして『数学』. 7月1日から形式的には編集長です. それ故こうして『数学通信』本号で後記を書いています. どっこいまだ編集していません▶通算で, 雑誌の締め切りには勝ち越して(いると信じて)いますが, 単行本のそれには負け越しています. それは口「惜し」いので今後の課題といたします.

====ここまで==== (577 文字)